

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「Shine かがやこう! Rainbow にじいろのえがお Nexus つながる白根」  
 ○自ら学び、様々な表現活動を通して考えを深めようとする力を育てます。(知)  
 ○自分のよさを発揮し、他の違いを認め合いながらともに活動できる心を育てます。(徳)  
 ○自分や他の生命と体を大切に、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)  
 ○自分を見つめ、仲間や地域社会とのつながりを大切にしながら、ともに生きようとする心を育てます。(公・開)

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

#### 具体化した資質・能力

<自分づくりに関する力>  
 <言語能力>

主体性・積極性 自分らしさを発揮しようとする姿勢  
 感じたことを言葉にする力 相手の思いを受け止めて聞く力

#### 中期取組目標

○教職員、保護者、地域が三位一体となり、子ども一人一人が自分のよさを発揮し、互いに認め合える学校を目指します。  
 ・1年目は、一人一人の子どもが自分自身を見つめ、自分のよさを安心して出せる場づくりに努めます。  
 ・2年目は、お互いが一人一人のよさを認め合い、自分の考えを伝え合える力を育てます。  
 ・3年目は、伝え合うことで自分の考えを深め、何事にも自分から積極的に関わろうとしていく子の育成に努めます。  
 ・3年間を通して、教職員、保護者、地域が協力し、子ども一人一人が自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子どもたちが考えたい授業づくりをし、自ら課題を発見し解決しようとする力を育成する。②ICTを活用したり、ペア学習を積み重ねたりして、かかわり合いながら学ぶことを通して、主体的に学習に取り組み、学ぶ楽しさや達成感を味わえるようにする。
担当	研究部

#### 学力向上に関わる本校の状況

令和3年4月に行われた横浜市学力・学習状況調査では、学力、学習意識、生活意識全てにおいて学年によってばらつきが見られる。  
 学力は市の平均前後の学年が多く、令和元年度と比べてみると、学力が市の平均に近づいている学年が増えている。学習意識と生活意識は、令和元年度は  
 中学年から高学年に向けて高まっている傾向がみられるが、令和3年度では中学年から高学年になるほど低下している。この背景には、令和2年からの新型コロナウイルスの拡大によって、学校行事や学習の制限があったことにより、高学年の活躍の場が減ってしまったことも一因と考えられる。

#### 今年度の目標

子どもが考えたい授業づくり～ICT活用を通して～

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**

- どの子どもも楽しく学習できるように教材や授業を工夫する。
- 話す、聞く姿勢の徹底をする。話すときは当てられから、聞くときは、話している人の方を向いて聞くよう徹底する。正確に読む力を身に付ける。文章問題で問われていることを読み取り、正しく立式したり、的確に答えたりする。
- 算数では、半具体物や図を用いて問題場面をつかもうとする力をつけさせる。
- 算数では、基礎的な数や図形についてはほぼ理解できているが、空間図形(もの)の形を機能的な特徴でとらえる・統計(複数のグラフを関連付けて読み取る)の正答率が低いので、問題文を丁寧に読み取ること、図などを用いて問題場面を整理することに丁寧に取り組ませる。
- 日頃の授業の様子から、学習につまずいている児童が見受けられる。AIDリルの活用や特別支援教育を含めた、個に応じた支援を行う。

**下半期**

- 具体物を用いたり、実際に作図させたり、AIDリルを活用したりして定着を図る。
- 授業の導入場面では、課題解決に向けて意欲を高める教材を工夫したり、答えを出すことだけを急ぐのではなく、答えを出すまでのプロセスを大切にしたりした授業をしていくことで、知識・理解や技能の定着を図る。
- 日常生活を通して楽しみながら数や形に親しめるように支援し、学習したことを、日々の生活の中で生かすことができるようにする。
- 自分の考えを説明したり他者の考えを理解できるように、言語化したり視覚化したりするなどの支援をする。
- 位取り表を用意したり、数直線を作図させたりAIDリルを活用したりして定着を図る。

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ペア学年やたてわりでの活動を充実させ、上学年を目標としたり、下学年に対して自分が役に立っていると実感できたりするような場面を意図的に準備する。②様々な活動において、自分の考えをしっかりと伝えたり、友達の考えを寛容に受け止めたりすることで、考えを広げ、互いに認め合えるようにする。
担当	研究部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、比較的落ち着いて学校生活を送り、学習においても、決められたことは、最後まで一生懸命取り組んでいくことができる。また、地域からの協力も得られ、様々な活動を通して、自分のよさを感じとり、学習にいかしていこうとする気持ちをもっている。  
 また、人の気持ちを考えて行動していくことができる児童がいる反面、まだまだ相手を意識できずにいる児童も多い。

#### 今年度の目標

一人ひとりの子どもが、安心して豊かに学校生活を送れるように、健やかな心を育む場を大切にする。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**

- 全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。
- 縦割り活動の充実を図り、全校遠足や運動会などを通して、異学年同士の思いやりの心や協力する心を育てる。
- 学年に応じた話し合い活動を進め、協力して取り組むことができるようにする。
- 感染症の状況に応じて、児童福祉委員会を中心に、あいさつ運動を継続的な活動にする。
- 感染症の状況に応じて、たてわりグループの活動に取り組むことで、互いを認め合えるようにする。

**下半期**

- 人権週間において、すべての学年で体験的活動に取り組み、多様性や他者を思いやる心情を育てる。
- 家庭や地域との連携を図り、多くの人と関わることで、思いやりの心を育てる。

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①年間を通して短縄に取り組み、めあてに向かって継続的に活動を行い、体力の向上を図る。②食育を通して、作物の栽培や食文化、栄養に興味をもち、食生活を大切に考えることができるようにする。
担当	研究部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

休み時間は、校庭でドッジボールや鬼ごっこで遊ぶ児童が多い。  
 食教育の取り組みから、食への関心が高く、朝食の摂取率が高く、給食の残量も少ない。  
 放課後の運動量は、スポーツクラブに参加している児童もいるが、休日は運動しないなど二極化が見られる。

#### 今年度の目標

子どもが安心して豊かに学校生活を送れるように、健やかな体を育む場を大切にする。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**

- 長縄の集会を計画し、めあてに向かって取り組むことで、運動を通してクラスや学年、全校での一体感や達成感が得られるようにする。
- 食育を通して、作物の栽培や食文化、栄養に興味をもち、食生活を大切に考えることができるようにする。
- 中休みにフラフープ・竹馬の貸し出しをし、運動する機会を増やす。

**下半期**

- 体育学習では、自分に合っためあてをもち、その達成に向けて、意欲的に取り組むようにする。
- 運動の特性を理解し、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。チームで協力する楽しさや集団で取り組む運動のよさを感じられるようにする。
- 運動委員会から「冬のスポーツイベント」を提案し、全校児童が外で楽しみながら運動を行えるよう計画する。